令和7年度版「学力向上ポートフォリオ（学校版）」【白幡中学校】

① 今年度の課題と授業改善策

	学習上・指導上の課題		授業改善策【評価方法】
知識・技能	<学習上の課題>基礎学力は全国平均・市平均よりも高いが、学んだ知識を実生活に生かす意識が低く、行動も少ない傾向が強い。 <指導上の課題>各教科で学ぶ内容が実生活にどう生かせるか、応用できるかといった問い（発問）が授業設計されていることが少ない。	⇒	各教科の単元の始まりに本単元を学ぶ意味や価値、実生活にどう生かすことができるかなどをきちんと生徒が考える問いと時間を確保する。
思考・判断・表現	<学習上の課題>物事を批判的に考えることが弱い、もしくは発想がない。自分の考えを主張する、発信することに課題がある。 <指導上の課題>生徒が深く思考するために十分な時間の確保が必要だが、学習内容が多く、じっくりと考える時間が確保しづらくなっている。	⇒	学習内容について多面的・多角的に捉えるために、各教科の見方・考え方が働く問いの工夫を行う。単元の中に適切な量と順序で生徒が思考できる時間を確保するためにカリキュラム・マネジメントを行う。

② 全国学力・学習状況調査結果について（分析・考察）

知識・技能	国語・数学ともにすべての項目で全国・埼玉県の正答率を上回っている。数学においては、選択肢よりも短答式の方が正答率が高く、基本的な知識を答える問題は定着している。
思考・判断・表現	理科では、「身の回りの事象から生じた課題や問題を解決するための課題設定ができるかどうか」という記述式も問題に対しての正答率が全国より-2%低かった。本校の課題でもある、学んだ知識を実生活に生かす意識が低かったことも要因のひとつとして考えられる。国語では無解答率は全国・埼玉県よりも低く、選択肢や短答式よりも記述式の方が無解答率が高くなる傾向にあるが、本校でも同様であった。

③ 中間期報告 / 中間期見直し

	評価（※）	授業改善策の達成状況	授業改善策【評価方法】
知識・技能	B	教科によっては、学んだ内容を実生活に生かすような授業設計や問いを行うことができた。 引き続き、各教科等で学ぶ意味や価値を示しながら、実生活に生かす教材開発や問いを行っていく。	変更なし
思考・判断・表現	B	総合的な学習の時間などを活用して、学習内容を多面的・多角的に捉える学習を進めることができた。2学期以降は、カリマネデザインマップを活用して、時間の創出をしていきたい。	変更なし

※評価　A 8割以上（達成）B 6割以上（概ね達成）C 6割未満（あと一歩）

④ さいたま市学習状況調査結果について（分析・考察）

知識・技能	国語・数学・社会の3教科においては、理解度が高い状況であった。一方で、理科においては、1年は生命を柱とする領域以外は市平均よりも理解度がやや低い状況であった。特に粒子を柱とする領域は、理解度に大きな課題がみられた。地球を柱とする領域は、1・2年生ともに理解度に課題がみられた。粒子や地球は中学生の発達段階では概念も難しく、教室の中でイメージしたり、考えられる範囲も狭かったりすることが大きな要因だと考えられる。
思考・判断・表現	国語・数学・社会の3教科においては、理解度がやや高い状況であった。一方で理科においては、1年生はやや課題がみられた。特に地球を柱とする領域における「地層」「断層」についての記述は、無解答率が高く、思考の土台となる基礎知識が乏しいことから、思考の手がかりがつかめない生徒や解答することを諦めてしまう生徒が多いのではないかと考えられる。

⑤ 授業改善策の達成状況

	評価（※）	
知識・技能	B	基礎・基本的な学力は多くの教科で達成されていることから、引き続き授業力向上を行っていく。質問項目の「学ぶことや働くことの意義を考えたり、今、学校で学んだことと、自分の将来とのつながりを考えたりしていますか。」は、学年が上がるごとに肯定的な回答の割合が市平均よりも下がっていくため、より実社会とのつながりや将来とのつながりと結び付けていくことが重要である。
思考・判断・表現	B	各教科、生徒の実態に応じて各教科の見方・考え方が働くような問いや課題を設定し、生徒自身に豊かな思考・判断・表現をする機会を設けている教科がいくつかあった。カリキュラム・マネジメントを行って、各教科の学びが結びつく工夫をしている教科もいくつかあった。

※評価　A 8割以上（達成）B 6割以上（概ね達成）C 6割未満（あと一歩）

⑥ 次年度への課題と授業改善策

知識・技能	基礎学力は全国学力・学習状況調査およびさいたま市学習状況調査ともに平均を超えている。質問項目では、各教科で好きと答える割合は市平均よりも高い教科は、授業内容がよく分かると答えている割合が高くなる傾向がある。生徒が何をもって好きと捉えるのか生徒の実態を捉える必要があるが、テストの点数が取れる＝内容が理解できているという可能性もあるため、テスト問題を検討する必要があるかもしれない。
思考・判断・表現	知識そのものを習得する以上に、習得した知識や技能を活用することを通して、思考力・判断力・表現力を育てる授業の工夫が必要である。各教科の見方・考え方を働かせる問いを設定し、考える必要性がある学習課題を設定することも同時に必要である。また、資料等を読み取り、そこから自分の意見や考えを記述する、表現することに加えて、各教科で学年が上がるにつれて、「授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」の問いに対する肯定的な回答の割合が下がる傾向がある。授業内に考える時間を確保しなければならない。そのためには、内容を精選し、カリキュラム・マネジメントをすることが重要だと考えている。